

分位のところにあります。「S」のマーク小賀坂の看板は、昭和50年に第二工場を作った際に亀倉先生が設計して設置した看板です。

それ以降あらゆる商品に、マーク・ロゴを使い続けております。私共は、スキー・スノーボードを通じて、人々に喜びと、潤いと、健康をもたらすお手伝いをするということを経営理念にしております。

スキーやスノーボードは、生活必需品ではございません。スポーツや趣味の類ですから、やるのが楽しくなければなりません。楽しくするには、スキー本体の品質、性能が十分なものでなければなりません。そのためには、思う通りに滑れてこそ、本当の滑る楽しさが生まれるんだということが、スキーを作る上で一番の考えであり、そうでなければ続かないと思います。そのためには、品質や思う通りに滑れる性能、それに高価なものですから簡単に折れたり、壊れたりしてはいけません。品質と耐久性も大事であります。

営業方針としては・・・中略・・・(プロフィールの頁参照)

次に品質のこだわりですが、いろいろあります。この中ですべて言い切っております。

「自分ならこの品を喜んで買うだろうか」各工程の作業者が自信を持って次の工程へ送り出せる作業をしないと、完全なものにならないという考えから、このような項目を工場内に掲げており、意識を高めて仕事に取り組んでもらいたいとやっております。

次に品質・性能へのこだわりでございます。

1. 品質

厳選された材料

独自の製造工程

2. 性能

独自の技術開発

妥協しない仕上げ工程

徹底した品質管理

まず、品質を維持するには、厳選された材料でなければならない。

芯材の木材は、1年半から2年かけて乾燥させる。さらに乾燥を重ね、手間暇かけて加工しております。

グラスファイバーやカーボンファイバー、アルミ合金や滑走面材というものを一品、一品検査して加工工程に回し、精度を1/100に仕上げ使用することにしております。

次に独自の製造工程でございます。

材料は、それぞれ作り上げた物でも歪みも癖もあります。木材でも、先ず削ってから乾燥させ歪みなどを出し、また削るという工程を繰り返し、材料のうちに歪みを出来るだけ取り除くようにしております。

もう一つは、プラスチック、アルミもそうですが熱をかければ膨張する、冷えれば縮む、これを絶えず繰り返します。いろいろな材料を接着剤で貼り合わせる時も、出来るだけ低い温度で貼り上げることが、独自の製造工程と言われているところでございます。

